

# 皆が暮らしやすい社会へ

四街道市立四街道中学校 三年 行木 彩寧

「新たにタイで同性婚が法律で可能になりました。」

先日、いつものように朝食を食べながらニュースを見ていると、こんなニュースが流れてきました。それはタイで同性婚が法律で認められた、という内容でした。そんなニュースを見て自分のことのようにうれしいと思う気持ちの反面、まだ同性婚が法律で認められていない国があるのだと驚きました。このニュースをきっかけに、ジェンダー平等について興味がわき、調べてみることにしました。

突然ですが皆さんは男女差別と聞いて、どのようなことを思い浮かべますか？私は「女の子なのだからこれはしちゃだめ。」「男の子なのだからこうあるべき。」のような、身の回りで耳にする機会の多い言葉を思い浮かべました。みなさんもこのような言葉を一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

私が小学生のころ、雨と雷がとてつもない勢いで降る、ひどい嵐の日がありました。大きな雷が連発して起こり、泣き出してしまう男の子を見た周りの人たちが、「男の子なのに雷怖いんだ。男の子なら普通は雷なんかに怖がらないけどね。」と言ったことを今でも覚えています。それを聞いて私は、男の子にだって怖いことの一つや二つはあるだろうし、何よりみんなが言っている『普通』とは何だろうと疑問に思いました。そのことから「男女の違い」や「普通」というものに疑問をもったことが、今回「同性婚」というニュースに関心をもったきっかけになっていたのかもしれない。

日本では同性婚が法律で認められていません。私はこれを初めて知ったときとても驚きました。なぜ好きな人と一緒にいることが否定されるのか。なぜ周りの人の『普通』にすべて合わせなくてはならないのか。私は不思議でたまりませんでした。さらに私を驚かせたのは、現在、同性婚が認められている国の割合は、約十七パーセントしかないということです。これは世界中の四分の一にも達していないこととなります。日本だけでなく世界が協力して解決していくべき課題なのだ

と感じました。

次に日本の男女差別についてです。現在、日本で起きているジェンダーの問題として教育格差や雇用格差などがあげられます。調べていく中で私が強く感じたのは、日本人は根本的に決めつけていることが多いのではないかと言うことです。私自身も学校で「男子で誰かできる人？」と声がかかり、手を挙げられなかった経験があります。確かに男性と女性では元々の体のつくりが違います。できる役割に、向き、不向きがあるかもしれません。しかし、男性だって女性より力が弱い人もいれば、女性で男性より力が強い人もいます。だからこそ性別だけで決めるのではなく、大切なのは、その人のことをよく知ることだと思います。そして、決めつけることによる判断をなくすことを、まずは私自身が意識し、実行していかなければならないと感じました。

日本国憲法第十四条「すべて国民は、法の下にあって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において差別されない」の通り、全ての人が、ジェンダーによる差別のない日本を目指していかなければいけません。ジェンダーによる差別は男女共につらくなる、あってはいけないことだと思います。現在、社会ではジェンダーによる差別をなくす活動が行われていますが、それでもまだ、差別がなくなっていないです。このスピーチで一番伝えたいことは、この問題を解決するには一人一人が相手の気持ちや個性を尊重し、受け入れることが大切だということです。そうすることで誰もが生きやすい素晴らしい社会になっていくのではないのでしょうか。今と一緒に生きる全員が楽しく暮らせる世界を目指し、私もその一員としてできることに取り組んでいきたいです。